

令和6年度第10回教育委員会定例会

議事日程及び議案等

令和7年1月14日（火）

16時00分

於：女性第一・第二研修室

議事日程

令和7年1月14日（火）16時00分
女性第一・第二研修室

- 1 開 会
- 2 会議成立の宣告
- 3 会議録署名者の指名
- 4 会議の公開等について
- 5 議案審査順
公開予定（案）
報告事項(1) 第77回優良公民館文部科学大臣表彰について
報告事項(2) 休日における部活動の地域移行の状況等について
- 6 その他
- 7 閉 会

第77回 優良公民館 文部科学大臣表彰について

1 被表彰公民館

鹿児島市城西公民館 (館長：中山 恭平)

2 表彰の趣旨

公民館等の施設のうち、特に事業内容・方法等において工夫をこらし、地域住民の学習活動に大きく貢献しているものを優良公民館として文部科学大臣が表彰し、今後の公民館活動の充実・振興に資する。

3 表彰理由

- (1) 県指定伝統工芸品「薩摩糸びな講座」及び少年自然の家や科学館などと連携した講座の開設
- (2) 地域総合文化祭やレクレーションのつどい、ごみゼロクリーン作戦など自主学習グループとの連携による事業の推進
- (3) 季節ごとの設営の充実とイベントの案内・広報を通じた図書室利用の促進

4 表彰式

- (1) 日 時：令和7年2月28日(金) 10:30~11:00
- (2) 場 所：文部科学省 東館3階 第一講堂

【参考】

○ 受賞状況

令和5年度：東桜島公民館

令和3年度：鴨池公民館

○ 城西公民館の利用状況

令和3年度 64,672人

令和4年度 74,327人

令和5年度 84,369人

鹿 児 島 市

休日における部活動の地域移行の状況等について

説 明 用 資 料



鹿児島市教育委員会
保健体育課
学校教育課

『部活動』

学校の教育活動の一環

生徒の自主的自発的な参加により行われる部活動は、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものである

－中学校学習指導要領解説 保健体育編

少子化に伴う
部員減少・
ニーズの多様化

学校の
働き方改革の
推進

『部活動』改革の必要性

R5年度から「休日の部活動の段階的な地域移行」を推進

【R5～R7：改革推進期間】

【国の動き】



鹿児島市教育委員会
保健体育課
学校教育課

「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」 【中間とりまとめ】 R 6.1 2 月

・ 改革の理念

将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実するのが改革の主目的

・ 地域移行 → 地域展開

・ 改革推進期間 → 改革実行期間
(R 5 ~ 7 年) (R 8 ~ 1 4 年)

【鹿児島市のめざす姿】



鹿児島市教育委員会
保健体育課
学校教育課

学校と地域が協働・融合した形での持続可能なスポーツ・文化芸術等の活動のための環境整備を進め、生徒にとって望ましい持続可能な活動と教職員の負担軽減の両立を図る。

① 生徒の持続可能で多様なスポーツ、文化芸術環境の整備

② 教師の働き方改革の推進と学校教育の質の向上

【令和6年度 鹿児島市の実態】



鹿児島市教育委員会
保健体育課
学校教育課

中学校数：39校
(全校生徒数 2人～964人)

全生徒数：16,210人

(部活動内訳)

「運動部」活動数：361部

「運動部」活動参加者：8,961人

「文化部」活動数：84部

「文化部」活動参加者：2,080人

【モデル事業を実施】

(成果と課題を検討)

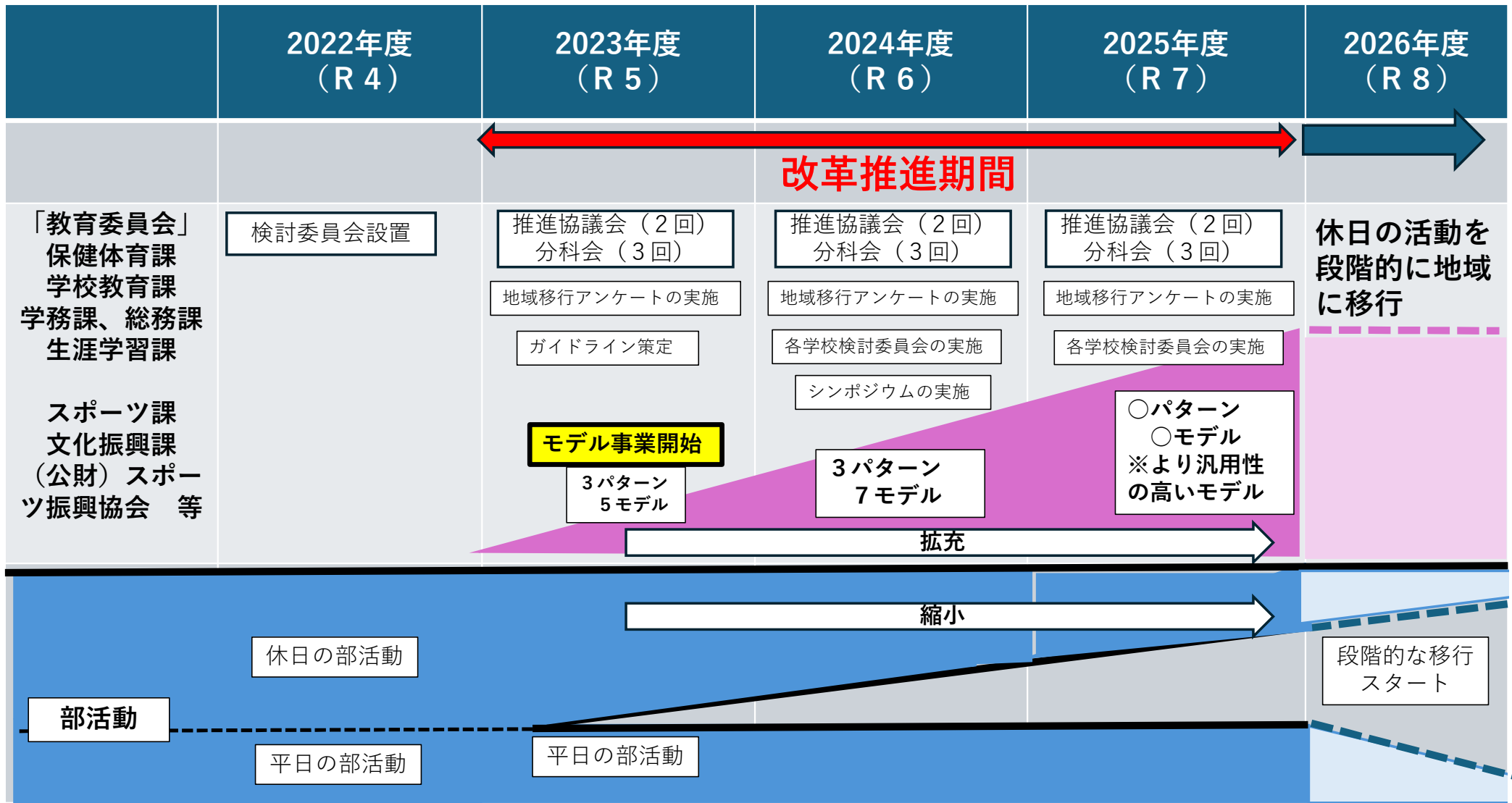


【研究成果を普及】



【各学校で実施】

(休日の地域における
新たなスポーツ・文化
芸術環境の構築につな
げる)



運動部活動地域移行検討事業の概要



鹿児島市教育委員会
鹿保学 健体教 育課

◎R6モデル事業のイメージ

- 3パターン、7つのモデル事業で実施。
- 市に総括するコーディネーターを置く。
- 期間は、昨年度と同様のR6.8月～R7.1月の6カ月



鹿児島市

- 総括コーディネーター
- ・全体の統括
 - ・アンケートの実施
 - ・実態の検証
 - ・人材バンクの検討
 - ・今後の方策の検討

R6部活動モデル数:約40部

《今年度からの取組（新たな検証事項）》

- ・参加費を一部徴収するモデルを実施
- ・連絡調整や会費徴収のシステム導入を検討
- ・人数の足りない団体種目を集めて行うモデルを実施
- ・もともと学校にない種目もできるモデルを実施
- ・新たな運営主体での取組
- ・モデル校の指導者等を対象とした研修会を実施

拡充

拡充

新規

拡充

継続

新規

継続

1「地域委任型（Ⅰ）」
【1校】

喜入中
【全部活動(9部)】
+
喜入スポーツクラブ
(昨年度継続)

- ・参加費徴収
- ・連絡調整システム導入)

2「地域委任型（Ⅱ）」
【3校】

桜島島内中学校
【全部活動(4部)】
+
桜島スポーツクラブ
(主体変更)

- ・スポーツクラブ運営
- ・島内全校で実施
- ・学校にない種目

3「地域委任型（Ⅲ）」
【1校】

鴨池中
【部活動(10部)】
+
Kamoikeクラブ

- ・事業者、保護者会等による運営
- ・校内全運動部で実施

4「拠点校型（Ⅰ）」
【5校】

天保山中・甲東中・甲南中・南中・鴨池中
【陸上部(5部)】
+
合同クラブ
(昨年度継続)

- ・校数増
- ・鹿大との連携

5「拠点校型（Ⅱ）」
【3校】

伊敷中・伊敷台中・城西中
【陸上部(3部)】
+
NPO法人SCC
(昨年度継続)

- ・団体競技で実施
- ・保護者会による事務局運営

6「拠点校型（Ⅲ）」
【4校】

玉龍中・河頭中・吉田南中・緑丘中
【団体競技(4部)】
+
保護者会

7「運営団体委任型」
【2校】 【計19校】

(1)谷山中学校
(2)伊敷台中学校
【バスケットボール(3部)】
+
鹿児島レブナイズ
(指導者派遣)



文化部活動地域移行検討事業の概要



◎R6モデル事業のイメージ

- 3パターンのモデル事業を実施
- 市に統括するコーディネーターを設置
- 期間は、R6.7月～R7.2月

《今年度からの取組（新たな検証事項）》

- ・中学校区単位の校区文化クラブの創設（吹奏楽部・演劇部）
- ・拠点校と周辺校による地域文化クラブの創設（吹奏楽部）
- ・美術館や公民館等と連携し、全ての生徒を対象とした文化クラブ（WCC）の開催（美術）
- ・アンケートアプリを活用した人材バンクの開設
- ・学校施設等利用時の鍵等の管理体制の構築



統括コーディネーター

- ・全体の統括
- ・アンケートの実施
- ・実践の検証
- ・人材バンクの開設・管理
- ・今後の方策の検討

R6実施モデル：3モデル

新規

1 「地域委任型（Ⅲ）」

【3校】

皇徳寺中・武岡中・吉野東中
【吹奏楽部・演劇部】

〇〇中校区文化クラブ

- ・校区文化クラブの創設
- ・顧問教諭の兼職兼業
- ・地域指導者の派遣



新規

2 「拠点校型（Ⅲ）」

【拠点校1校 協力校2校】

桜島中・東桜島中・黒神中
【吹奏楽部】

桜島地域文化クラブ

- ・地域文化クラブの創設
- ・地域指導者の派遣
- ・学校にない芸術文化活動



継続

3 「地域連携型」

【全校対象】

鹿児島市立中
【全生徒対象】

合同文化クラブ(ウィークエンドカルチャークラブ)

- ・鹿児島大学や市立美術館等との連携
- ・多様な生徒のニーズに対応
- ・学校にない芸術文化活動



モデル事業（途中経過）について



【成果と課題】 ※途中経過

活動の継続性と多様性、教職員の負担軽減

・活動の継続性と多様性

※モデル事業中の聴き取りや事業後の質問紙による調査等により、成果や課題を洗い出し、整理する

「運営団体」

- 参加者が増え、活動が活性化している
- 地域の指導者も携わることで、次年度以降の見通しが持てる
- 学校から部活動の全てを委ねられても対応できない
- 地域の指導者だけで学校（音楽室等）へ入ることができない

「参加者」

- 専門的な指導が受けられ、モチベーションが高まっている
- 活動日数（時間）が限られており、少ない

「地域指導者」（教職員含む）

- 生徒が増えることで指導を見直す機会となっている
- 指導日数が少ない

【成果と課題】 ※途中経過

・ 教職員の負担軽減について

- 休日の指導が減ることで負担が減った
- 指導に携わる時間に学校の仕事ができる
- 複数の指導者で指導を行えるので指導の勉強になる
- 休日の団体の指導者と関係性が希薄な場合、連絡や連携が取りづらい
- 平日の部活動を指導するが、休日の活動に参加しない指導者が、他校の休日にも指導を行う指導者に対し、申し訳ない気持ちになる

今後の課題について



- 運営、実施主体 → 各団体への周知、確保や整備等
- 指導者 → 指導者の確保、質の担保等
- 参加費、活動費 → 適正な参加費、生徒への補助検討等
- 活動場所 → 施設、部分的なセット解除等
- 学校との連携 → 情報共有や活動場所の提供等
- 大会参加 → 大会やコンクールへの出場の在り方等
- 国や県の動向 → 次期学習指導要領の内容の把握等